

海外安全対策情報（令和7年7月～11月期）

1. 社会・治安情勢

2025年9月末から10月上旬にかけて、首都アンタナナリボを中心に、慢性的な停電・断水への不満を背景としたデモが同時多発的に発生し、一部では商店襲撃などの暴徒化も確認されました。その後、要求は政権交代へと発展し、軍の一部がデモ隊を支援した結果、当時の大統領は国外へ退避し、軍部主導の暫定政権が樹立されました。今後も政治情勢はある程度流動的な状態が続くとみられ、場合によっては新たな抗議行動が発生する可能性もあります。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) 一般犯罪は依然として高い発生率です。
- (2) 邦人の被害

首都アンタナナリボ(Antananarivo)市内の独立大通り、アナラケリー(Analakely)周辺では、スリ、ひったくり、集団強盗が多発しています。7月～11月期に邦人の一般犯罪・凶悪犯罪被害は確認されませんでしたが、過去にはアナラケリー(Analakely)で日本人観光客がひったくり被害に遭った事例が報告されています。十分ご注意ください。夜間に警察官を装った者から不当な金銭要求を受けた事例も報告されています。パスポート不携帯や予防接種不備などを口実に、執拗に要求を繰り返すケースもあります。少額であっても毅然とした態度で拒否することが重要ですが、状況によっては危険な状況に陥る可能性もあるため、臨機応変に対応する必要があります。夜間は少人数での行動を避け、十分注意してください。

(3) 邦人以外の被害事案

スリ、ひったくり、武装強盗などの一般犯罪は依然として発生しています。マダガスカル人富裕層やインド・パキスタン系実業家を標的とした武装強盗や身代金目的の誘拐事件も発生しています。また、中国人を被害者とする凶悪事件や殺人事件も発生しており、日本人と中国人が見分けにくいことから、より一層の注意が必要です。

3. テロ・爆弾事件発生状況

当地でイスラム過激派等のテロ組織の存在や具体的な活動は確認されていません。しかし、潜伏地または経由地になっている可能性も指摘されており、大規模イベントや人混みには十分注意し、不用意に近づかないようにしてください。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

主にマダガスカル人富裕層やインド・パキスタン系富裕層を標的とした誘拐事件が発生しています。

(1) 邦人被害事案

近年、邦人を標的とした誘拐・脅迫事件は発生していません。一般的にマダガスカル国民の対日感情は良好ですが、貧困問題を背景とした金銭目的の犯罪が多いいた

め、常に警戒が必要です。

(2) 邦人以外の被害事案

被害者は主にマダガスカル人富裕層やインド・パキスタン系実業家で、身代金の支払いと人質が解放されるケースが多いです。

5. ダハロ（牛強盗団）による犯罪多発地域

アンタナナリボ(Antananarivo)州以外、特に南西部地域においてその活動が活発です。とりわけ、国道10号線（アンドラノボリ(Andranovory)～アンパニ(Ampanihy)）および国道13号線（イフシ(Ihosy)～アンブヴォンベ(Ambovombe)）では、ダハロによる襲撃事件が高頻度で発生しており、同区間の通行は昼夜を問わず避けてください。また、西部のツィルアヌマンディディ(Tsiroanomandidy)からメインディラーノ(Maintirano)にかけての道路沿いや、北部のツアラタナナ(Tsaratanana)周辺地域にもダハロの拠点が存在するとの情報があり、これらの地域を移動する際は特に警戒が必要です。

6. 航空機を利用する際の注意点

(1) 国内線

預け入れ荷物から現金や貴金属が抜き取られる被害が報告されています。鍵付きでも被害に遭うケースがあり、被害届を出しても十分な対応がされない可能性があります。貴重品は預け入れ荷物に入れないとください。

(2) イバト(Ivato)国際空港

今期、邦人からの被害報告はありません。しかし、過去には空港職員等による不当な金銭要求や、荷物検査を装った窃盗事件が発生しています。荷物検査時は手荷物や検査員から目を離さないようにし、検査が目の前で実施されない場合は強く抗議してください。不当な要求には毅然と対応し、必要に応じて在マダガスカル日本大使館にご連絡ください。

7. 日本企業の安全に関わる諸問題

特段の問題は確認されていません。

8. 当館調べによる2024年発生犯罪件数（統計）

事件種別	発生件数
武装強盗（ダハロによる襲撃を含む）	369 件
誘拐	194 件
殺人	385 件
傷害	250 件
スリ	17 件
その他	234 件

（了）